

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方案
【めざす学校像】	○ 一人一人の学びを保障するいじめを生まない学校 ○ 美しく整理され保護者・地域に開かれた安心・安全な学校	学力(聞く・書く・話す)の定着	・児童のよさを認め、称賛していくことを基本に聞く・書く・話すのもデルを提示し、基本の形を習得するよう、学年で計画的に取り組むようにする。 ・テーマ研究を通して「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業方法を協議し、全職員の授業改善に向けた取組を図るようになる。
【めざす児童像】	○ 「た」 たくましい心と身体をもった子ども ○ 「か」 考え追究し、学び取る力を身に付けた子ども ○ 「と」 友達を大切に、親切でよく助け合う子ども ○ 「り」 理想を掲げ、常に自分を磨き続ける子ども	不登校児童・遅刻児童数の抑制	・SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)と連携し、保護者との連絡や面談を適宜行い、児童の不安やネガティブイメージを払拭し、登校に向けた前向きな気持ちをもつようになる。
【めざす教員像】	○ 自ら研修に励み、授業力を高める教員 ○ 組織体として目標に向かって協働する教員 ○ 使命感と責任感を持って職務遂行する教員 ○ 温かい眼差しで教育的愛情を注ぐ教員	思いやりのある児童の育成	・児童の学年や性別、特性等の違いによって接し方を変える誤った見方や考え方を改善するために、まず、教職員の人権感覚を研ぎ澄ますよう研修や連絡会の場を利用して啓発していく。 ・教科、道徳、特活等の指導をはじめ、日常的に相手を思いやることに焦点を当てたソーシャルスキルを意識した指導を取り入れる。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
思考力・表現力の育成	・授業のポイントを生かした授業実践を通して授業力向上に努め、学校評価で肯定的評価を80%以上にする。	・学校評価では、80%の肯定的な評価を受け、「めあて」と「まとめ」を授業に位置付け、1時間の学習で何について学習しているのか目的を明確にすることができた。しかし、わかったことは何かという振り返りを行うことについては今後の課題である。 ・「主体的で対話的な深い学び」を求めて、その考え方を踏まえた授業を全37学級で実施し、授業力の向上に取り組むことができた。 ・学校評価では、85%の肯定的な評価を受け、授業では「聞く」「話す」「書く」という基本的な力の育成に重点を置いて、取り組むことができた。児童により理解の差が見られるので今後、改善していく必要がある。	
	・テーマ研究を通して学び合い考えを高め合う学習指導の授業公開を全37学級で行い、授業力向上に努める。 ・全教科の授業において「話すこと・聞くこと」の充実を図り、学校評価で肯定的評価を80%以上にする。		
自他を大切にす思いやりのある子どもの育成	・体験活動や地域人材の活用など教育の充実を図り、学校評価で肯定的評価を80%以上にする。	・学校評価では、80%の肯定的な評価を受け、総合的な学習や生活科の学習を通して体験的な活動や地域人材を活用した授業を展開していくことができた。 ・QUアンケートや定期的いじめアンケート等の結果に基づき、面談や個別指導を通していじめの発生や進行を早期に把握することができた。今後も教員の人権感覚も含め、学校全体でいじめを許さない風土の醸成に努める必要がある。 ・児童の自尊感情の向上については全学級において「よさ」の承認という観点から学級経営に取り組むことができた。85%の肯定的な評価を得ることができた。	
	・QUアンケート等に基づいた指導や対応を行い、いじめの発生をゼロにする。 ・支持的風土のある学級集団づくりや子どもへの賞賛・励まし等を行い、自尊感情の肯定的評価を80%以上にする。		
体力の向上と規範意識の高揚	・体力向上月間の取組等健康教育の充実を図り、学校評価で肯定的評価を80%以上にする。	・体力テストの結果を踏まえ、課題となる持久力向上に向け、3分間走や縄跳び等を取り入れている。その結果、外遊びをする児童の割合が80%を超え、体力向上に向け意識が高まってきている。 ・全校朝会や学級指導、その場での日常指導を通して意識して安全指導に取り組むことができた。しかし、階段・廊下での歩行や運動場での遊び方等児童への定着が十分ではないので、継続した指導が必要である。 ・挨拶や清掃、姿勢については、日常的に意識した取組ができ、学校評価では85%の肯定的な評価を得ているが、定着した取組が学年・学級によって不十分なところも見られ、今後の課題として継続して取り組む必要がある。	
	・危機意識を持った日常的な安全点検や廊下歩行の徹底等を行い、学校評価で肯定的評価を80%以上にする。 ・気持ちのいい挨拶や「黙々掃除」「立腰タイム」の日常化を図り、学校評価で肯定的評価を80%以上にする。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○ 子どもの自尊感情を向上させるために「よさ」に着眼し、指導を続けていることはいいことである。地域でも子どもたちに自分のいいところはどこかとたずねたりするが、明確な回答がないことが多い。 また、最近の状況を見ても、親に叩かれ、虐待を受けているという内容の報道が目につくようになり、ますます、子どもの自尊感情や自己肯定感を高め、育てていくことは重要になっている。 ○ 4年生以上の多くの子どもたちが、外で昼休みを過ごしていることについても、いいことであり継続してほしい。			